

【平成28年度第1四半期】学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等について（提案8～10）

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- ・経費負担を要するものは、原則として年間10回程度
- ・経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計3件まで
- ・土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

	提案番号等	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の人的支援
1	提案8 【P.2～3】	原子力発電所事故と汚染水対策（仮題）	4月23日（土） 12:30～17:30	日本学術会議 講堂	要	要

2. 土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等

- ・各年度32回まで（土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）
- ・四半期ごとにおおむね8回（土日祝日開催の日本学術会議主催学術フォーラムを含む）

	提案番号	テーマ	開催希望日時	主催委員会等名
1	提案9 【P.4～5】	教育における LGBTI の権利保障—現状と課題（仮題）	5月21日（土） 13:00～17:00	法学委員会「社会と教育における LGBTI の権利保障」分科会
2	提案10 【P.6～7】	「卵子の老化」説を深読みする—科学的・医学的言説とジェンダー（仮題）	6月18日（土） 13:00～17:00	社会学委員会ジェンダー研究分科会

注：学術フォーラム1件（提案8）を除く。
職員の人的支援はなし。

(提案 8)

日本学術会議主催学術フォーラム「原子力発電所事故と汚染水対策」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：平成 28 年 4 月 23 日（土）12:30～17:30

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 開催趣旨：

第二次世界大戦の最後に 2 つの原子爆弾を受けた我が国は、原子力の平和利用についても慎重であったが、多くの研究、技術開発に支えられ、54 基の原子力発電所を有するまでになっていた。立地の選択・岩盤立地から活断層の存在、起きうる地震動・津波、その他の自然の猛威を考慮し、安全を第一におき建設され運転されてきた。

原子力発電所の仕組みは現存する大規模人工物の中でも最も複雑なものである。これらの中には並列的な仕組み直列的な仕組み、持ちつ持たれつの仕組みなどが複雑に関係して全体が成り立っている。

東日本大震災を受けて、東京電力福島第一原子力発電所は大事故・大災害を起こした。現在は廃炉に向けた長い道のりの始まりであり、原子力発電所の複雑な仕組みが大規模に破壊されており、震災から 5 年近くの歳月にわたり関係者は最大限の力を注いでいるが、未だ大きな難関の中にあるといわざるを得ない。これに加えて、地上への放射能汚染、地下水や海洋への放射能汚染は広域に広がる大問題であり、確実な対策を続けて進める必要がある。

日本学術会議は東日本大震災復興支援委員会の下に汚染水問題対応検討分科会を設け、第三者の学術の立場から、政府や東京電力の関係者のヒアリング、現地視察などを基に、この問題について広く議論してきた。この度の学術フォーラムでは、「福島第一原子力発電所の立地と事故前の状況」、「福島第一原子力発電所事故による汚染水問題と対策」及び「未経験の大事故対策に関する開かれた議論」に分け、具体的にこの対策に当たっている政府や東京電力株式会社の関係者による説明と、より確実な対策の推進に向けて研究者との開かれた議論を行う。

5. 次 第：

総合司会

沖 大幹（日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授）

12:30-12:40 開会挨拶

花木 啓祐（日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学大学院工学系研究科教授）

12:40-12:50 趣旨説明

- 和田 章（日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授）
- 12:50-13:30 「福島第一原子力発電所の立地と事故前の状況」
- 1) 福島第一原子力発電所の立地と常時の地下水対策
調整中（東京電力株式会社の技術者・研究者）
 - 2) 福島第一原子力発電所の事故前の状況
調整中（東京電力株式会社の技術者・研究者）
- 13:30-14:40 「福島第一原子力発電所事故による汚染水問題と対策」
- 1) 福島第一原子力発電所事故の状況と汚染水問題
調整中（原子力災害対策本部廃炉・汚染水対策チーム）
 - 2) 2016年3月までの汚染水対策と今後の予定
調整中（原子力災害対策本部廃炉・汚染水対策チーム）
- 14:40-14:55 休憩
- 14:55-17:20 パネルディスカッション「未経験の重大事故対策に関する開かれた議論」－講演後、登壇者による議論－
- 司会 嘉門 雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）
和田 章（日本学術会議第三部会員、東京工業大学名誉教授）
- 1) 汚染水対策に関する第三者評価と残る課題（仮）
嘉門 雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）
 - 2) 未経験の重大事故に関わるリスク認知（仮）
花木 啓祐（日本学術会議第三部会員・副会長、東京大学大学院工学系研究科教授）
 - 3) 未経験の重大事故と国内外の社会への説明（仮）
丸井 浩（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授）
 - 4) 巨大化する技術と重大事故に関わる法学からの意見（仮）
吉田 克己（日本学術会議第一部会員、早稲田大学大学院法務研究科教授）
 - 5) 福島原子力発電所の事故と地域経済への影響（仮）
山川 充夫（日本学術会議第一部会員、帝京大学経済学部地域経済学科教授）
 - 6) 土－水－生物系における汚染水の問題（仮）
南條 正巳（日本学術会議第二部会員、東北大学大学院農学研究科教授）
 - 7) 流体科学から見た汚染水の動き（仮）
圓山 重直（日本学術会議連携会員、東北大学流体科学研究所教授）
 - 8) 水工学の観点から見た今後の課題（仮）
小池 俊雄（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）
- 17:20-17:30 閉会挨拶
嘉門 雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

(提案 9)

公開シンポジウム「教育における LGBTI の権利保障—現状と課題」（仮題）の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会「社会と教育における LGBTI の権利保障」分科会
2. 共 催：ジェンダー法学会（予定）、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化研究センター（予定）
3. 後 援：日本ジェンダー学会（予定）、ジェンダー史学会（予定）、教育関係学会にも後援依頼予定
4. 日 時：平成 28 年 5 月 21 日（土）13:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

LGBTI（同性愛・両性愛の性的指向を持つ人びと、性別違和感を持つ人びと、性分化疾患の人びとなど）の権利保障は、国際社会でも重要な課題の 1 つとなっている。しかし、日本では法的対応が遅れており、社会的差別が存在する。本分科会では、現状調査と国際比較調査を通して、LGBTI の権利保障のあり方について審議しており、「同性カップルの権利保障」については、平成 27 年 9 月 19 日（於：奈良女子大学）に公開シンポジウムを開催した。

今回は「教育」をテーマに、教育現場における LGBTI の生徒・学生に対する対応についての現状確認と国際比較を課題とする。教育現場では、LGBTI の子どもたちに対するいじめや偏見への対応に混乱が見られる。このような事態を改善するためにも実態を把握し、緊急に何らかの統一的指針が示される必要がある。シンポジウムでは、大学（日米）と中学（高校）における LGBTI の権利保障をめぐる現状と先進的取り組みを紹介し、医学・性教育の専門的見地からの留意点をまとめ、教育に関わる当事者の意見を聞く。これらの成果は、最終年度の「提言」作成に盛り込む予定である。

8. 次 第：

13：00～13：05 開会挨拶

三成 美保*（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学研究院生活環境科学系教授）

13：05～13：15 趣旨説明

- 戒能 民江*（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学名誉教授）
- 13：15～13：40 アメリカの大学における LGBTI の権利保障
高橋 裕子*（日本学術会議連携会員、津田塾大学学芸学部英文学科教授）
- 13：40～14：05 日本の大学における LGBTI に関する調査結果
隠岐さやか*（日本学術会議連携会員、広島大学大学院総合科学研究科准教授）
- 14：05～14：30 LGBTI 当事者に対するケアとカウンセリング（予定）
調整中（岡山大学ジェンダー・クリニックセンター関係者）
- 14：30～14：55 学校教育における LGBTI への理解啓発活動（予定）
調整中（中等教育関係者（候補としては愛媛県西条市立丹原東中学校））
- 14：55～15：10（ 休憩 ）
- 15：10～15：25 コメント 1
調整中（当事者 NPO 法人（教育関係）関係者）
- 15：25～15：40 コメント 2
調整中（性教育研究者）
- 15：40～16：55 総合討論
- 司会：戒能 民江*（日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学名誉教授）
紙谷 雅子*（日本学術会議連携会員、学習院大学法学部教授）
- 16：55～17：00 閉会挨拶
二宮 周平*（日本学術会議連携会員、立命館大学法学部教授）
- 総合司会：
長志 珠絵*（日本学術会議連携会員、神戸大学大学院国際文化科学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 10)

公開シンポジウム『『卵子の老化』説を深読みする—科学的・医学的言説とジェンダー』(仮題)の開催について

1. 主 催：日本学術会議 社会学委員会 ジェンダー研究分科会

2. 共 催：未定

3. 後 援：未定

4. 日 時：平成 28 年 6 月 18 日 (土) 13:00~17:00

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

高齢妊娠・出産の増加が指摘され、女性に若年（ほぼ 20 代）での妊娠・出産を奨励するための様々な対策がとられている。その一つが、「卵子の老化」によって不妊や流産が生じやすくなり、生まれてくる子どもの染色体異常等の発生頻度が高くなるという知識の普及である。女性たちは、高齢妊娠・出産に危機感を抱きつつも、仕事等ですぐには子どもをもつことができない状況に置かれている。一部の女性は、健康な卵巣の一部を凍結保存して、子どもを望んだ際に融解して利用する選択をしている（成功率は低い）。さらに、高年齢（おもに 35 歳以上）での妊娠では出生前検査を受ける「選択肢」が用意され、不妊治療としての体外受精等では、海外で第三者の卵子を提供してもらって帰国して出産する例が少なくないといわれている。「卵子の老化」言説は、女性たちだけではなく男性をも追い詰めている。「少子化社会対策」そのものを再検討するのを目的に、「卵子の老化」説をめぐる社会問題について考える。

8. 次 第：

13:00 開会あいさつ

遠藤 薫* (日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授)

司会 柘植あづみ* (日本学術会議連携会員、明治学院大学社会学部教授)

13:10 情報提供セッション (各 20 分のプレゼンテーション)

「出生前検査」

菅野 摂子 (電気通信大学研究推進機構研究推進センター特任准教授)

「女性の結婚・出産年齢等統計」

田中 慶子 (公益財団法人家計経済研究所次席研究員)

「提供卵子で子どもを持った人への調査」

白井 千晶 (静岡大学人文社会科学部准教授)

「妊娠・出産に関する知識の普及度」

田中 重人（東北大学文学部准教授）

14：30 パネルディスカッション

阿藤 誠（国立社会保障・人口問題研究所名誉所長）

早乙女智子（産婦人科医）

調整中

討論者

江原由美子*（日本学術会議連携会員、首都大学東京大学院人文科学
研究科教授）

後藤 弘子（日本学術会議第一部会員、千葉大学大学院専門法務研究
科教授）

16：50 閉会あいさつ

調整中

9. 関係部の承認の有無： 第一部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 1 1)

公開シンポジウム「素粒子物理・原子核物理分野の『大型施設計画・大規模研究計画マスタープラン』」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成28年2月12日（金） 13：00 ～ 18：00

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

「マスタープラン 2017」の公募にあたり、提案（改訂）を予定している素粒子・原子核物理学分野の大型施設計画・大規模研究計画について情報交換を行い、当該分野の今後の研究の進め方について議論を行う。

8. 次 第：

13：00－13：15 「マスタープラン改定について」

相原 博昭*（日本学術会議第三部会員、東京大学副学長・大学院理学系研究科教授）

13：15－13：35 「原子核物理学の展望」

田村 裕和*（日本学術会議連携会員、東北大学大学院理学研究科教授）

13：35－13：55 「J-PARC ハドロン実験施設の高度化による物質の起源の解明」

澤田 真也（高エネルギー加速器研究機構大強度陽子加速器計画推進部准教授）

13：55－14：15 「RI ビームファクトリーの高度化による「安定の島」を目指した RI 核反応学の推進」

延與 秀人（国立研究開発法人理化学研究所延與放射線研究室・主任研究員）

14：15－14：35 「光子ビームによるクォーク核物理」

清水 肇（東北大学電子光理学研究センター教授）

14：35－14：55 「高エネルギー重イオン衝突実験によるクォーク・グルーオン・プラズマ相の解明」

三明 康郎（筑波大学理事・大学院数理物質科学研究科教授）

14：55－15：15 「大規模計算による素粒子原子核研究」

保坂 淳（大阪大学核物理研究センター准教授）

- 15 : 15－15 : 30 休憩
- 15 : 30－15 : 50 「素粒子物理学の展望」
森 俊則 (東京大学素粒子物理国際研究センター教授)
- 15 : 50－16 : 10 「ILC 計画」
川越 清以 (九州大学先端素粒子物理研究センター長)
- 16 : 10－16 : 30 「LHC 高度化計画」
徳宿 克夫 (高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所所長)
- 16 : 30－16 : 50 「ニュートリノ実験将来計画」
横山 将志 (東京大学大学院理学系研究科准教授)
- 16 : 50－17 : 10 「J - P A R Cでの素粒子物理 (ニュートリノ以外)」
山中 卓 (大阪大学理学部教授)
- 17 : 10－17 : 30 「非加速器素粒子原子核実験」
井上 邦雄 (東北大学ニュートリノ科学センターセンター長)
- 17 : 30－17 : 55 全体討議
- 17 : 55－18 : 00 閉会の挨拶：
岡 眞* (日本学術会議第三部会員、東京工業大学大学院理工学研究科教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 1 2)

公開シンポジウム「TICAD VI in Nairobi: スマート・ドナーとして何を発信するのか？」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 地域研究委員会 国際地域開発研究分科会

2. 共 催：独立行政法人国際協力機構（JICA）

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 28 年 2 月 12 日（金）16：00～18：00

5. 場 所：独立行政法人国際協力機構研究所

6. 分科会の開催：開催予定なし

7. 開催趣旨：

途上国経済を効果的に発展させる開発戦略に関しては、いまだわからないところが多い。そのために、開発援助の世界は地図もないまま行先もわからずに漂流を続けている感がある。そうした現状を打破するために、日本学術会議では、地域研究委員会国際地域開発研究分科会（委員長：大塚啓二郎）を中心に、効果的な開発戦略・国際的支援のあり方について議論を重ねてきた。来年夏に TICAD VI（第 6 回アフリカ開発会議）がナイロビ（ケニア共和国）で開催されるというタイミングをとらえ、学術会議側の研究者の見解を提示し、民間企業、JICA、外務省の担当者と意見を交わしたいと考え、公開シンポジウムを企画することにした。このシンポジウムを通じて産官学の連携を強め、効果的な国際協力に向けた日本からの発信につなげたい。

8. 次 第：

16：00 開会の辞

澤田 康幸*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院経済学研究科教授）

16：05 Kaizen マネージメントの評価と発展方向

園部 哲史*（日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学政策研究科教授）

16：15 Kaizen から直接投資までの支援のパッケージを

浦田秀次郎*（日本学術会議連携会員、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

16：25 CARD の現状と課題

大塚啓二郎*（日本学術会議第一部会員、政策研究大学院大学政策研究科教授）

16：35 SHEP の意義と発展方向

- 不破 信彦（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）
16：45 質疑応答
- 17：00 民間企業の視点から
交渉中（経済同友会の代表者）
- 17：10 外務省はこう考える
丸山 則夫（外務省中東アフリカ局アフリカ部部長）
- 17：20 JICA はこう考える
北岡 伸一（国際協力機構理事長）
- 17：30 質疑応答
- 17：45 総合討論
（司会）澤田 康幸*（日本学術会議連携会員、東京大学大学院経済学研究科教授）
- 18：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 1 3)

公開シンポジウム「森林科学の未来を語る その1 セルロースナノファイバーの可能性を探る」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 農学委員会 林学分科会
2. 共 催：森林・木材・環境アカデミー、NPO 法人才の木
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成28年2月19日（金）13：30－17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

最近話題のセルロースナノファイバー（CNF）の実像に迫る。

CNFは日本再興戦略・改訂（2014）に取り上げられたことなどを契機に、研究課題にとどまらず行政課題として注目を集めており、木質科学の中で最もホットな話題である。一方、磯貝明先生が「森林のノーベル賞」と称される Marcus Wallenberg 賞を受賞するなど、CNF研究は高い評価を受けている。あらたな素材として注目され研究が進む中、その可能性と将来性について学術的な観点から論じる機会とする。特に、木質科学の諸課題を語る中で、新たな産業として発展していくために解決すべき課題も含めて、情報共有する機会としたい。

8. 次 第：

司会 鈴木 滋彦*（日本学術会議連携会員、静岡大学大学院農学研究科教授・副学長）

13:30 開会挨拶

川井 秀一*（日本学術会議第二部会員、京都大学大学院総合生存学館（思修館）学館長・特定教授）

講演

- 13：35 植物で車を創る－ナノセルロース材料のポテンシャルと課題－
矢野 浩之（京大大学生存圏研究所教授）
- 14：00 完全ナノ分散化木材セルロースナノファイバーの構造と機能
磯貝 明（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- 14：25 木質バイオマス成分リグニンの利活用を目指した機能化
浦木 康光（北海道大学大学院農学研究院教授）

- 14 : 50 ナノセルロースを軸としたバイオマスリファイナリー技術の展開
遠藤 貴士 (国立研究開発法人産業技術総合研究所機能化学研究
部門研究グループ長)
- 15 : 15 今後のナノセルロース研究に期待するもの
飯塚 堯介* (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、東京家
政大学客員教授)
- 15 : 40 - 15 : 55 (休憩)
- 15 : 55 総合討論
(コーディネーター)
川井 秀一* (日本学術会議第二部会員、京都大学大学院総合生存学
館 (思修館) 学館長・特定教授)
- 16 : 55 閉会挨拶
鈴木 雅一* (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)
9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 1 4)

公開シンポジウム「平成 27 年度日本歯学系学会協議会シンポジウム『これからの歯科医療を見据えた人材育成の在り方について』」の開催について

1. 主催：日本学術会議歯学委員会、日本歯学系学会協議会
2. 共催： なし
3. 後援：日本歯科医学会（予定）
4. 日時：平成 28 年 2 月 20 日（土） 13：30～17：00
5. 場所：昭和大学旗の台校舎 1 号館 7 階講義室
（〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8）
6. 分科会の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨

日本の社会は今、世界に類をみない少子高齢化が進み、社会構造や生活環境の変化により歯科疾病構造は大きく変わろうとしているところ。特に、超高齢者の急増と高齢者の残存歯数の増加により、有病高齢者に対する歯科診療の機会が急増することが予想されている。その中で、歯科医療機関を受診できない高齢者に対する訪問歯科診療（在宅・施設）の重要性が高まることを踏まえ、人材育成のためのロードマップの作成が急務といえる。すなわち、全身管理の出来る歯科医師の養成、医科歯科連携を推進できる歯科医師の養成、歯科訪問医療を実践できる歯科医師の養成が柱になると考えられる。

本シンポジウムは、これからの歯科医療を見据えた人材育成という広い視野に立ち、歯科衛生士や歯科技工士を含めた人材育成のためのロードマップの作成に向けた議論の場となることを目的とするものである。

8. 次第

1) 開会の辞

13：30～13：40

古谷野 潔*（日本学術会議第二部会員、九州大学大学院歯学研究
院教授）

宮崎 隆*（日本学術会議連携会員、日本歯学系学会協議会理事
長、昭和大学歯学部長・歯科理工学教室教授）

2) シンポジウム

座長：佐々木啓一*（日本学術会議連携会員、東北大学大学院歯学研究科
長・教授、日本歯学系学会協議会副理事長）

朝田 芳信*（日本学術会議連携会員、鶴見大学歯学部小児歯科学

講座教授、日本歯学系学会協議会副理事長)

13:40～14:20 「超高齢社会への日本の対応と歯科医療の在り方について」
辻 哲夫 (東京大学高齢社会総合研究機構特任教授、元厚生労働事務次官)

14:20～15:00 「認知症と歯科医療戦略：新オレンジプランから考える未来」

平野 浩彦 (東京都健康長寿医療センター研究所社会科学系専門副部長)

15:10～15:40 「昭和大学の体系的、段階的なチーム医療教育」

木内 祐二 (昭和大学薬学部病態生理教室教授・薬学教育推進室長)

15:40～16:10 「連携医療の場で全身疾患への対応や栄養管理のできる歯科医師の養成」

森戸 光彦 (鶴見大学名誉教授)

16:10～17:00

総合討論

3) 閉会の辞

佐々木啓一* (日本学術会議連携会員、東北大学大学院歯学研究科長・教授、日本歯学系学会協議会副理事長)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の登壇者は、主催委員会委員)

(提案 15)

公開シンポジウム「第2回理論応用力学シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同 力学基盤工学分科会
 2. 共 催：公益社団法人応用物理学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人土木学会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本風工学会、一般社団法人日本機械学会、公益社団法人日本気象学会、一般社団法人日本計算工学会、一般社団法人日本建築学会、一般社団法人日本原子力学会、一般社団法人日本航空宇宙学会、公益社団法人日本材料学会、公益社団法人日本地震工学会、一般社団法人日本数学会、公益社団法人日本船舶海洋工学会、公益社団法人日本伝熱学会、一般社団法人日本物理学会、一般社団法人日本流体力学会、一般社団法人日本レオロジー学会、公益社団法人農業農村工学会、日本計算数理工学会、公益社団法人自動車技術会、日本混相流学会
 3. 日 時：平成 28 年 3 月 8 日（火）13：00～17：00
 4. 場 所：日本学術会議講堂 外 1 室
 5. 分科会の開催：開催予定あり
 6. 開催趣旨：
力学に関する最も権威ある国際組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として「理論応用力学講演会」が長年に亘って開催され、力学分野の研究の活性化に貢献してきた。理論応用力学研究をより一層充実させるために、力学分野の先端的研究成果に関する最新動向を共有するとともに、将来への展望について議論することを目的として、平成 26 年 3 月 17 日に公開シンポジウム「第1回理論応用力学シンポジウム」が開催された。今回は、その第2回として「力学の深化・統合化及び展開」をテーマとして理論応用力学シンポジウムを開催するものである。
 7. 次 第：
司 会：高木 周（東京大学大学院工学系研究科教授）
- 13：00 開会の挨拶
宮内 敏雄*（日本学術会議連携会員、明治大学研究・知財戦略機構特任教授）

- 13 : 10 基調講演（１）「フロンティアは何処だ？」
北村 隆行*（日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科教授）
- 13 : 50 招待講演（１）「固体の共鳴振動理論の深化と展開」
 垂水 竜一（大阪大学大学院工学研究科准教授）
- 14 : 20 招待講演（２）
 「超音波照射下の粘弾性体における気泡力学の基礎とその医療応用」
 安藤 景太（慶応義塾大学理工学部専任講師）
- 14 : 50－15 : 10 （ 休憩 ）
- 15 : 10 基調講演（２）「メーキャップ化粧品開発の高度化をめざす光伝播解析」
 山田 純（芝浦工業大学工学部工学部長・教授）
- 15 : 50 招待講演（３）「フォノン輸送の科学と応用」
 塩見淳一郎（東京大学大学院工学系研究科准教授）
- 16 : 20 招待講演（４）「電気化学を用いた再生医療のための立体臓器の作製」
 福田 淳二（横浜国立大学大学院工学研究院准教授）
- 16 : 50 閉会の挨拶
藤井 孝蔵*（日本学術会議第三部会員、東京理科大学工学部教授）
- 17 : 00 閉会

８．関係部の承認の有無：第三部承認

（*印の登壇者は、主催分科会委員）

(提案 16)

公開シンポジウム「ダイバーシティ経営とワーク・ライフ・バランス」の開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会ワーク・ライフ・バランス研究分科会、独立行政法人経済産業研究所
2. 共 催：慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成28年3月22日（火）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

日本社会の直面するもっとも大きく長期的な制約は少子化である。これは高齢人口の拡大と相まって日本経済の中長期的観点からの最大の成長制約要因でもある。経済成長制約緩和の重要な処方箋の1つは、先進国標準から大きくかい離した（ゆえに潜在力も大きい）女性就労の水準を量・質ともに大幅に改善することである。しかし女性が子どもを持つ意欲を実現できるような雇用慣行の形成を同時に伴わなければ日本の長期制約は緩和されるはずもない。この両者を含めた概念としてダイバーシティ経営と、個人の選択とに焦点をあて、シンポジウムでは、女性活躍を中心としたダイバーシティ推進及びそのための環境整備としてのワーク・ライフ・バランス（WLB）に向けた個々の企業の取り組みや政府の施策が企業経営に、また女性の出産、賃金や働き方にどのような影響を与えているか、企業と個人の両面から議論する。第1部で、WLBの効果分析についての研究報告、第2部は政策担当者なども含めて、ダイバーシティ経営とWLBをどのように進めるかについてパネル・ディスカッションを行う。

8. 次 第：

司会 石原 直子（リクルートワークス研究所機関誌 Works 編集長）（予定）

13：00 挨拶

矢野 誠（日本学術会議第一部会員、京都大学経済研究所教授、独立行政法人経済産業研究所シニアリサーチアドバイザー）

中島 厚志（独立行政法人経済産業研究所理事長）

第1部 研究報告

13:10 女性活躍推進と企業業績

山本 勲 (慶應義塾大学経済学部教授)

13:20 企業のワーク・ライフ・バランス施策が女性の所得に与える影響について

山口 一男 (シカゴ大学社会学部教授、独立行政法人経済産業研究所客員研究員)

13:50 働き方改革及び育児短時間規制の出生と就業への影響

永瀬 伸子* (日本学術会議第一部会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授)

14:10 外資系企業の女性活用

児玉 直美 (一橋大学経済研究所准教授、独立行政法人経済産業研究所CF)

14:30 女性の多重役割と健康問題ワーク・ファミリー・バランスの観点から

吉沢豊予子* (日本学術会議連携会員、東北大学大学院医学系研究科保健学専攻教授)

14:50 質疑応答

15:10-15:30 (休憩)

第2部 パネル討論

15:30 第1部の議論を踏まえて基調講演

樋口 美雄* (日本学術会議連携会員、慶応大学商学部教授、独立行政法人経済産業研究所FF)

15:50 パネル討論参加者

武石恵美子* (日本学術会議連携会員、法政大学キャリアデザイン学部教授)

大石亜希子* (日本学術会議連携会員、千葉大学法政経済学部教授)

経済産業省経済社会政策室長

調整中 (企業経営者)

石原 直子 (リクルートワークス研究所機関誌 Works 編集長)

17:00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 17)

「アジア若手科学者会議」の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー
※担当：若手アカデミー国際分科会

2. 共 催：The Global Young Academy (予定)

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 28 年 3 月 16 日 (水) 15:00～18:00
3 月 17 日 (木) 10:00～12:00

5. 場 所：日本学術会議 会議室

6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

アジア地域各国において近年続々と若手アカデミーが設立されている。それらの間で緊密な連絡を取りながら、アジア地域内また他地域の若手科学者が連携しグローバルな課題に立ち向かっていくことが重要である。この目的の下、すでに平成 25 年 (2013 年) に日本学術会議によってアジア若手科学者会議の第一回が東京にて開催された。ここで、アジア地域における若手科学者の現状を調査し、より有意義な活動支援の方策を考えるという企画に取り組むことが参加者の間で決定された。これら各国若手アカデミーの主要メンバーが構成員となっている The Global Young Academy (The GYA) ではこのような各国における若手アカデミーの設立と運営を支援しており、日本若手アカデミーもその設立と運営方法の策定にあたっては厚い支援を受けてきたが、この企画も The GYA の支援を受けながら現在 ASEAN を中心として開始されている。本会議 (ワークショップ) ではこの進捗を共有しながら、日本学術会議が議長をする平成 28 年 (2016 年) の G サイエンス学術会議で議論される将来の科学者育成などグローバルな課題についてのアジアの若手による連携とアウトリーチの可能性について探ることを趣旨とする。なお、本会議は、若手アカデミー会議 (3 月 17、18 日を予定) に併せて開催することで二つの会議の相乗効果を高めることも企図している。

8. 次 第：

3 月 16 日 (水)

15:00 開催挨拶

狩野 光伸* (日本学術会議連携会員、岡山大学大学院医歯薬学総合
研究科教授)

15 : 10 参加各国アカデミーの現状報告

16 : 30－16 : 45 (休憩)

16 : 45 現状報告を踏まえた参加者間のパネル討論

ファシリテーター :

北村 友人* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院教育学研究科
准教授)

3 月 17 日 (木)

10 : 00 総合討論

11 : 50 閉会挨拶

竹村 仁美* (日本学術会議特任連携会員、愛知県立大学外国語学部
准教授)

参加者 : 日本学術会議若手アカデミー構成員

アジア各国からの参加者 (タイ、ベトナム、スリランカ、パキスタ
ン、 韓国などから 5 名程度を調整中)

(*印の講演者は、若手アカデミー構成員)

(提案 18)

公開シンポジウム「農芸化学としての酵素学からメディカルサイエンスへの展開」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 農学委員会・食料科学委員会合同 農芸化学分科会
2. 共 催：日本農芸化学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 28 年 3 月 28 日（月）9：00～11：30
5. 場 所：札幌コンベンションセンター
（北海道札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1）
6. 分科会の開催：開催予定あり

7. 開催趣旨：

少子化と高齢社会の到来は、より健康で安心な生活を営むための医療環境の一層の整備を必要とする。酵素に関する基礎科学と応用研究は、農芸化学という分野で大きく発展してきたが、「健康」を主要なキーワードの一つとする農芸化学においては、今後「メディカルサイエンスに向けた酵素研究」も視野に入れるべきと考えられる。酵素は創薬にも診断法開発にも多大な貢献をしてきた事実があり、農芸化学で培われてきた酵素の基礎・応用研究が今後も資することは論を待たない。

本公開シンポジウムでは、「これまでに得られた研究成果がどのようにメディカルな学問領域に貢献できるか」を、農芸化学の場で酵素研究に携った研究者だけでなく、医学系研究者、製薬企業研究者、一般の参加者も加わって討議する。

8. 次 第：

- 09：00 開会挨拶
清水 誠*（日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授）
- 09：05 タンパク質架橋化酵素トランスグルタミナーゼ活性で病態を診断する
人見 清隆（名古屋大学大学院創薬科学研究科教授）
- 09：25 新規バイオマーカーとしての D-アミノ酸とその酵素的定量法
吉村 徹（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）
- 09：50 タンパク質切断酵素カルパインの基質特異性が個体の健康を規定する
反町 洋之*（日本学術会議連携会員、公益財団法人東京都医学総合研究所参事研究員）

- 10 : 15 環状ヌクレオチド分解酵素の研究基盤構築と創薬への展開
大森 謙司 (田辺三菱製薬株式会社探索生物研究所研究員)
- 10 : 40 薬剤標的としてのミトコンドリアー寄生虫からがん細胞までー
北 潔 (東京大学大学院医学系研究科教授)
- 11 : 05 新規アミノ酸定量用酵素の開発
浅野 泰久 (富山県立大学生物工学研究センター教授)
- 11 : 30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)

(提案 19)

公開シンポジウム「第 29 回環境工学連合講演会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会 学際連携分科会
2. 共 催：一般社団法人日本機械学会（※）、公益社団法人化学工学会、公益社団法人環境科学会、環境資源工学会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、公益社団法人高分子学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人地盤工学会、静電気学会、公益社団法人大気環境学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本水道協会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本土壌肥料学会、公益社団法人日本分析化学会、公益社団法人日本水環境学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会（※印は幹事学会）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 28 年 5 月 13 日（金）9:15～17:45
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定なし
7. 開催趣旨：

「未来の社会を担う環境工学」を統合テーマとして、官・学・民の研究者及び技術による学術成果、技術成果の発表、討議を通じ、バランスのとれた環境工学の発展を意図して行う。

持続可能な社会の構築や、全世界の多くの人々が安心して暮らせる環境の形成など、課題を多く抱えている現状に対し、エネルギーや資源を有効に活用した環境負荷の小さい、安全・安心な社会を創り出すために、環境工学の立場から社会へ向かっての情報発信が望まれる。直近の未来社会で解決すべき具体的な課題や、次世代の未来社会のあるべき姿のビジョンなどを、各専門領域のそれぞれの観点から発言し、立場を超えた議論の深化を目指す。
8. 次 第：
 - 開会（9:15～9:20）

開会挨拶：嘉門 雅史*（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）
 - 【循環型社会（9:20～10:40）】

座 長：赤司 泰義（空気調和・衛生工学会／東京大学大学院工学系研究科建築学専攻教授）

A-01 招待講演：地球温暖化とリサイクル：化学工学からのアプローチ

- 山崎 章弘 (化学工学会／成蹊大学理工学物質生命理工学科教授)
- A-02 招待講演：地球的環境制約と都市環境管理：都市における持続可能な消費と生産、資源効率、自然資本と生態系サービス
井村 秀文 (環境科学会／横浜市立大学グローバル都市協力研究センター特任教授)
- A-03 招待講演：社会システム設計ツールとしての LCA
平尾 雅彦 (日本 LCA 学会／東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻教授)
- A-04 招待講演：あたりまえの未来を考える
石田 秀輝 (日本セラミックス協会／日本セラミックス協会地球村研究室代表社員、東北大学名誉教授)

□【社会基盤 (10:50～12:10)】

- 座 長：玄地 裕 (日本 LCA 学会／産業技術総合研究所総務本部人事部人材開発企画室室長)
- A-05 招待講演：「SHASE21 世紀ビジョン」が目指す空気調和・衛生工学の目標
倉淵 隆 (空気調和・衛生工学会／東京理科大学工学部建築学科教授)
- A-06 招待講演：新しい地盤環境管理と基準の社会実装に向けて
肴倉 宏史 (地盤工学会／国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター主任研究員)
- A-07 招待講演：グローバルな音環境制御を実現するための技術開発と今後の課題
坂本 慎一 (日本建築学会／東京大学生産技術研究所准教授)
- A-08 招待講演：これからの廃棄物からのエネルギー回収のあるべき姿
近藤 守 (廃棄物資源循環学会／日立造船株式会社環境事業本部環境技術企画部部長、日本環境衛生施設工業会技術委員長)

(昼休み)

■【特別講演 (13:00～13:30)】

- 座 長：船水 尚行 (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院工学研究院教授)
- S-01 特別講演：スマートコミュニティへのアプローチ
小野田 弘士 (日本機械学会／早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科准教授)

□【大気環境 (13:40～14:40)】

- 座 長：小林 潤 (廃棄物資源循環学会／工学院大学工学部機械工学科准教授)
- P-01 招待講演：気象/大気質モデルによる PM2.5 濃度予測評価
近藤 明 (大気環境学会／大阪大学大学院工学研究科教授)
- P-02 招待講演：低温プラズマと触媒の複合技術を利用したガス浄化とアンモ

ニア合成

金 賢夏 (静電気学会／産業技術総合研究所環境管理研究部門
反応場設計研究グループ主任研究員)

P-03 招待講演：プラズマ複合処理による大気環境保全技術の展開
大久保雅章 (日本機械学会／大阪府立大学大学院工学研究科教授)

□【水資源 (14:50～16:10)】

座 長：加藤 之貴 (日本鉄鋼協会／東京工業大学原子炉工学研究所エネ
ルギー工学部門教授)

P-04 招待講演：都市の水基盤整備とそのデザイン
小野 芳朗 (日本水環境学会／京都工芸繊維大学大学院工芸科学
研究科建築学部門教授)

P-05 招待講演：東京水道における環境負荷低減への取り組み
伊東 克郎 (日本水道協会／東京都水道局東村山管理事務所所長)

P-06 招待講演：膜処理の積極的導入による都市水代謝システムの機能・安心
度向上

木村 克輝 (土木学会／北海道大学大学院工学研究院准教授)

P-07 招待講演：水循環と計測技術
佐藤 浩昭 (日本分析化学会／産業技術総合研究所環境管理研究
部門環境計測技術研究グループ長)

□【資源循環 (16:20～17:40)】

座 長：伊豆田 猛 (大気環境学会／東京農工大学大学院農学研究院教授)

P-08 招待講演：植物の有害元素の輸送—安全・安心な有害元素フリーの作物
の作出に向けて

馬 建鋒 (日本土壌肥料学会／岡山大学資源植物科学研究所教授)

P-09 招待講演：鉄鋼スラグからの『リン』濃縮
山本 高郁 (日本鉄鋼協会／京都大学工学研究科特任教授)

P-10 招待講演：循環型社会構築に寄与する固体分離技術
所 千晴 (資源・素材学会／早稲田大学理工学術院教授)

P-11 招待講演：使用済み環境触媒からのレアメタルリサイクルの現状と課題
新苗 正和 (環境資源工学会／山口大学大学院理工学研究科環境
共生系専攻資源環境システム学分野教授)

■閉会 (17:40～17:45)

第 29 回環境工学連合講演会の総括：

吉田 篤正 (第 29 回環境工学連合講演会運営委員長／日本機械学
会／大阪府立大学大学院工学研究科機械工学分野教授)

閉会挨拶：米田 雅子* (日本学術会議連携会員第三部、慶応義塾大学特任教授)

9. 関係部の承認の有無： 第三部承認

(*印の登壇者は、主催分科会委員)